

(注)「コモロ連合月報」は、新聞報道等をまとめたものであり、当館として事実関係を確認したものではありません。記事中にコモロ政府の公式見解と異なる内容が含まれる場合もあるため、予めご留意願います。なお、各記事冒頭の日付は、報道された日付となっています。

コモロ連合月報（2025年1月）

《要点》

【内政】

●7日 コモロ Al-Watwan 紙によると、アザリ大統領は6日、大統領府で、多数の代表者が出席する中、新年の演説を行い、経済的及び社会的な課題に立ち向かうために団結を呼びかけた。

●13日 コモロ Al-Watwan 紙によると、天候の影響で一部の地域では早朝の投票率は低かったものの、各地に派遣された記者の報告によると、午後には投票率が上昇する傾向が見られた。一部の投票所への選挙資材の配送の遅れを除いては、選挙は概ね全国的に平穏に行われた。

●14日 コモロ Al-Watwan 紙によると、東アフリカ待機軍（Eastern Africa Standby Force : EASF）の選挙監視団は、一部の投票所で投票開始の遅れが見られたものの、全体として肯定的な評価を下した。

●23日 コモロ各紙によると、最高裁は、与党の CRC 党が次期議会（28 議席）の過半数を獲得したと発表した。

【外政】

●17日 コモロ各紙によると、16日、中国とコモロ間の経済・技術協力協定に署名する式典が外務省で行われた。この協力協定により、中国はコモロの開発支援として130億コモロ・フラン（約43億円）を拠出すると発表された。

【経済】

●31日 コモロ Al Fajr 紙によると、26人のアフリカの国家元首および政府首脳が、ダルエスサラームで開催されたアフリカ・エネルギー・サミットに参加した。アザリ大統領はスピーチの中で、2030年までに80%のエネルギー普及率を達成すると発表した。

1 内政

6日 コモロ各紙によると、3日、現外務大臣ムバエ・モハメド候補の支持者たちが、集会を行った。与党の活動家たちは、団結、平和、安全、そして発展を掲げる候補者の希望に満ちた演説に後押しされた楽観的なムードの中、選挙戦を繰り広げている。

7日 コモロ Al-Watwan 紙によると、6日、アザリ大統領は、大統領府で、多数の代表者が出席する中、新年の演説を行い、経済的及び社会的な課題に立ち向かうために団結を呼びかけた。

7日 コモロ La Gazette 紙によると、国民議会選挙のキャンペーンが本格化する中、選

挙ポスターの損傷や撤去行為が報告されている。独立選挙委員会（CENI）は、法的規定を改めて示し、自由で透明な選挙を保証するための規則順守を呼びかけた。

10日 コモロLa Gazette紙によると、1月12日に予定されている国民議会選挙の2日前でも、選挙戦は熱狂的な盛り上がりには欠けている。現政権の取り組みを支持する人もいる一方で、未履行の公約を非難する人や、現状を変えるために独立系候補者に期待を寄せる人もいる。モロニ市街や周辺の村々では、選挙前の雰囲気は、ある種の無関心さによって特徴づけられている。

13日 コモロAl-Watwan紙によると、天候の影響で一部の地域では早朝の投票率は低かったものの、各地に派遣された記者の報告によると、午後には投票率が上昇する傾向が見られた。一部の投票所への選挙資材の配送の遅れを除いては、選挙は概ね全国的に平穏に行われた。

13日 コモロLa Gazette紙によると、アンジュアン島での選挙は緊張感と不正行為の告発に彩られたものとなった。アンジュアン島の12の選挙区で行われた選挙は、本来であれば民主主義と表現の自由の瞬間となるはずであったが、「すぐに茶番劇と化した」と野党候補は批判している。

14日 コモロAl Fajr紙によると、Orange党党首は、2月16日に行われる地方議会選挙から統一野党の全候補者が撤退すると発表した。

14日 コモロ各紙によると、選挙の夜に与党は候補者の勝利を宣言した。33議席のうち、与党CRC（La Convention pour le Renouveau des Comores：コモロ再生会議）党は現時点で、1回目の投票で当選が宣言された候補者32名と、2回目の投票に進んだ候補者1名をであった由しかし、彼らはCENIによる暫定結果を待って、指導者を確定する予定である。

14日 コモロAl-Watwan紙によると、東アフリカ待機軍（Eastern Africa Standby Force：EASF）の選挙監視団は、一部の投票所で投票開始の遅れが見られたものの、全体として肯定的な評価を下した。

15日 コモロ各紙によると、独立選挙委員会（CENI）は14日の夕方、国民議会選挙の暫定結果を発表した。発表された結果によると、与党CRC（La Convention pour le Renouveau des Comores：コモロ再生会議）党の圧勝が確定した。大統領派は33議席中29議席を獲得した。暫定投票率は明記されていない。

16日 コモロAl Fajr紙によると、国民議会選挙の暫定結果に関して、Hamahamet選挙区で落選したTWAMAYA党（注：コモロ語で希望の意）のハミドゥ（HAMIDOU KARIHILA HAMADI）氏は、この結果を即座に否定し、与党が仕組んだ不正な選挙だと非難した（当館注：ハミドゥ氏は元サウジアラビア大使で、ムバエ（MBAE MOHAMED）現外相の対抗馬。）。

20日 コモロLa Gazette紙によると、国民議会選挙から6日後、ハッサンリー・アブドゥランジズ医師率いるMOLECO（Mouvement Les Engagés des Comores）運動が報道陣に語った。政治家となった医師は、投票に行かないというスローガンに従ったモヘリ島民を称

賛し、実際の投票率は15%以下であると主張した。

23日 コモロ各紙によると、最高裁は、与党のCRC党が次期議会（28議席）の過半数を獲得したと発表した。

28日 コモロ各紙によると、大統領派は27日、メディアに対して、2029年の大統領職の輪番制は憲法の規定に従ってアンジュアン島になると述べた。

2 外政

8日 コモロAl-Watwan紙によると、グオ（GUO Zhijun）駐コモロ中国大使は1月30日、コモロラジオ・テレビ局（ORTC）を表敬訪問した。大使は、中国とコモロの距離は離れているが、両国は長い年月にわたって友好関係を築いてきたとし、文化の違いにもかかわらず、両国はさらに親密になっていると述べた。

17日 コモロ各紙によると、16日、中国とコモロ間の経済・技術協力協定に署名する式典が外務省で行われた。この協力協定により、中国はコモロの開発支援として130億コモロ・フラン（約43億円）を拠出すると発表された。

17日 コモロ各紙によると、フランスがマイヨット島からのコモロ人の追放を望んでいると発表する一方で、アザリ大統領は「マイヨット島から追放されたコモロ人を歓迎することはできない」と主張した。

20日 コモロAl-Watwan紙によると、ピエランジェロ（Claire PIERANGELO）米国大使（コモロ兼轄）は、17日にアザリ大統領と会談し、両国のパートナーシップ、実施されたプロジェクト、海洋協力の進展について満足の意を表明した。

24日 コモロ各紙によると、15日、「スプリング・フェスティバル」として知られる旧正月がモロニ市の中国大使館で祝われた。アザリ大統領は、この機会に中国国民に新年の挨拶を述べるとともに、両国の関係促進への決意を新たにした。

29日 コモロAl-Watwan紙によると、アザリ大統領は、ビデオメッセージで、「習近平国家主席と中国国民に、幸福、繁栄、平和、そして継続的な進歩を」と願った。このビデオメッセージは、中国で最も影響力があり、最も視聴されているテレビ局であるCCTVで放送された。

3 経済

28日 コモロLa Gazette紙によると、コモロ政府はIMFとの経済安定化プログラムを進めているが、いくつかの問題が残り、IMFは対外債務不履行の懸念を表明している。5つの定量的パフォーマンス基準（QPC）のうち3つは達成されたが、税収と対外債務に関する基準は未達成であり、これは経済の脆弱性を示すものとされている。対外債務は依然として管理可能とされるが、過剰債務リスクや短期的なマクロ経済の悪化が懸念されている。食料インフレや資源不足、停電などが社会的緊張を引き起こし、安定性に影響を与える恐れがある。

31日 コモロAl Fajr紙によると、26人のアフリカの国家元首および政府首脳が、ダルエスサラームで開催されたアフリカ・エネルギー・サミットに参加した。アザリ大統領はスピーチの中で、2030年までに80%のエネルギー普及率を達成すると発表した。

(了)